

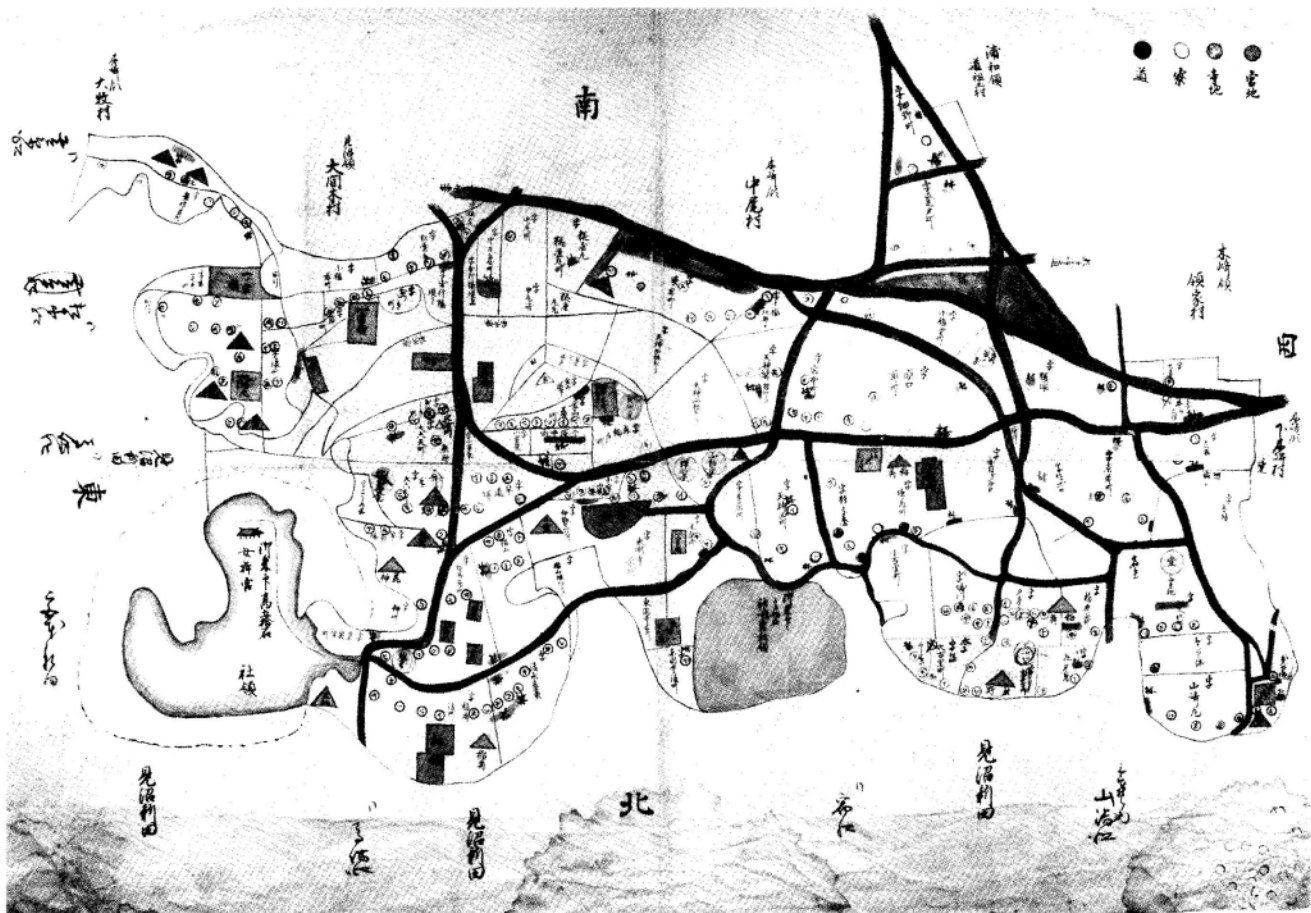
さいたま市立浦和博物館館報

## あかんさす

VOL. 44-1  
通号 第 110 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

## 江戸時代の村絵図を読む(1)



▲三室村絵図

当館では、平成27年10月24日(土)から11月29日(日)まで、「江戸時代の三室村をあるく～絵図から迫る村のすがた～」と題して、江戸時代に三室村名主を代々務めた武笠家が所有する「武笠家文書」(市指定有形文化財、埼玉県立文書館寄託)の村絵図をはじめ、近年同家から新たに発見された、村絵図その他24点の資料を展示しました。

今号と次号にわたり、展示資料の中から「三室村絵図」(写真)を例に取り上げ、絵図を読み解いていきます。



## 1 村絵図とは

江戸時代の「村」は、おおむね現在の「大字」に相当する地域です。村には、名主や組頭、百姓代といった村役人が置かれ、彼らを中心として村政が運営されていました。

村では必要に応じて様々な絵図が作られましたが、これらの絵図を総称して「村絵図」と呼んでいます。

村絵図は、村の領主や代官の交代時のほか、村内巡検、通行などに先立って領主や代官に村の概況を伝えるため、争いとなった土地の境界画定のため、土木治水工事のためなど、その村固有の目的をもって作成されました。

絵図の目的により、絵師に依頼したり、名主など村役人自ら、また絵画に心得がある村民によって描かれていたものと思われる。

また、絵図作成のための村域の測量は、村役人を中心とした村民によって行われていたものと思われる、測量に関しても、当時の村役人は相応の技術を持っていたものと考えられます。

## 2 三室村の概要



江戸時代の三室村は、上図のように現在の緑区大字三室及び山崎1丁目、馬場1・2丁目、松木1～3丁目、芝原1～3丁目、宮本1・2丁目と、見沼新田にあたる大字三浦、大道、新宿、宮後、見沼のほぼ全域と大字三崎の一部を含む、広大な地域でした。

江戸時代を通じて幕府の領地で代官による支配を受けており、広い村内は山崎組・宿組・馬場組・松木組・芝原組の5組に分かれ、各組が見沼開発

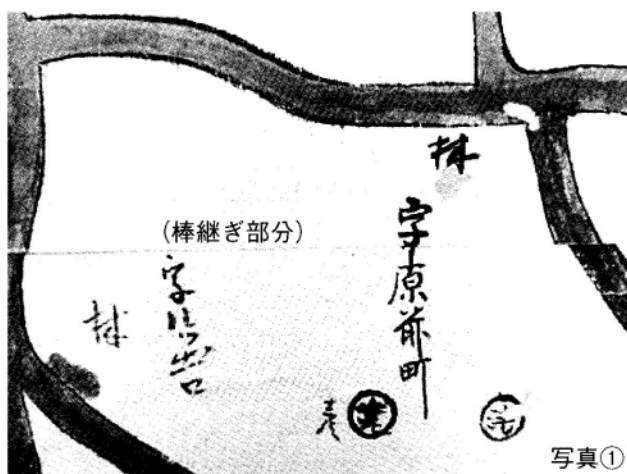
後の新田を持ち、宮本地区は氷川女體神社が幕府から賜った朱印地(社領)となっていました。

文政12年(1829)に幕府がまとめた地誌『新編武蔵風土記稿』によると、当時三室村の戸数は200戸余りで、隣接する中尾村(117戸)、道祖土村(30戸余)、大間木村(18戸)と比べても、かなり大きな村だったことがわかります。

## 3 「三室村絵図」について

この絵図は、近年武笠家で所有されていることがわかった資料の一つで、今回の特別展で初めて公開したものです。

全体の大きさは縦54.3cm、横77.0cmで、縦27.4cm、横38.8cmの和紙4枚を継ぎ合わせて作成したものです。紙継ぎは、継しろを約5mmとって和紙を直線に切り、この幅を均等に保つように定規をあて、糊で継ぐ「棒継ぎ」(写真①)という技法がとられています。



本図には、表題、作成者名や提出先、作成年月日、作成理由、などの基本的な文字情報が記載されておらず、また本図の作成に関連した他の文書も現在のところ確認されていないため、誰が、いつ、何のために作成したものかが明確ではありません。

以下、絵図の記載内容をもとに、これらの謎について考えていきます。

## 4 彩色・文字情報・方位について

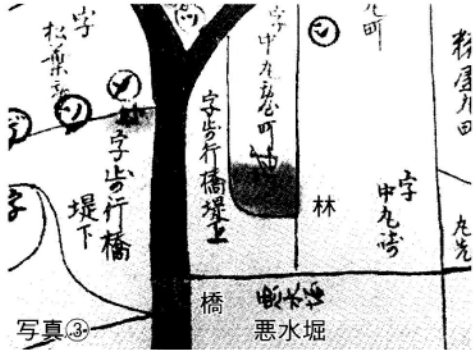
本図には右上部に色分け凡例があり、赤色で宮地、青色で寺地、黄色で寮(お堂)、灰色で道が、また凡例にはないものの、緑色で林が、黒色で村境、村内の字境及び野道、悪水堀が描かれていません(写真②・③)。

文字情報としては、字名、神社名、寺院名、主





写真②

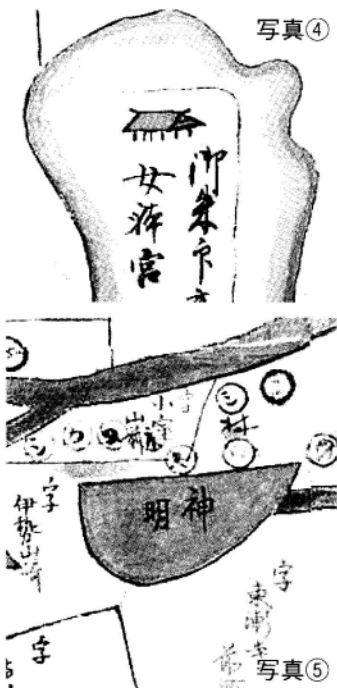


要道名、隣接村名のほか、三室村を構成する5組名が、各組の持つ見沼新田の位置とともに記載されています。なお、村の北部から東部にかけての村境を流れる見沼代用水西縁は、本図に描かれていません。

東西南北の方位を示す文字は、本図の四辺に記されていますが、南を上配置した形で描かれています。現在の地図とは異なり、当時の絵図は、必ずしも北を上配置して描くというものではなかったことを物語っています。また、縮尺値を示す記述が見られる絵図もありますが、本図にはありません。

### 5 絵画的表現と記号

絵図には、建造物などを立体的に描く絵画的表現と、これを簡略化して描いた記号、及び文字が併記されるという特徴があります。

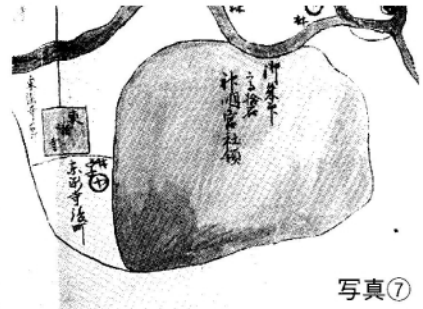


本図の場合、氷川女體神社の社殿（写真④）、絵図南東を南北に走る道と悪水堀の交差点（写真③）、及び絵図北西の宝蔵院付近の道に架かる橋が絵画的表現で描かれ、神明社（伊勢山神明社）が、社殿の鎮座する岡を示す表現で大きく描

かれています（写真⑤）。この両社は、それぞれ50石、10石の朱印地を持っており、三角の記号で描かれている他の村内の神社とは別格で扱われています。このうち、氷川女體神社の朱印地は、神社所在地周辺に大きく有するほか、「一宮領」の表記で村内各所に小規模の朱印地が点在している一方（写真⑥）、神明社領は、「神明宮社領」の表記で絵図北側の見沼新田に面した場所にまとまって所在していたことがわかります（写真⑦）。このほか、寺院が正方形、寮が円形の記号で表現されています。

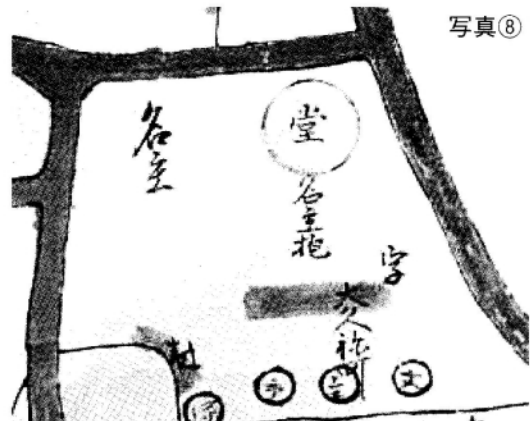
かれています（写真⑤）。

この両社は、それぞれ50石、10石の朱印地を持っており、三角の記号で描かれている他の村内の神社とは別格で扱われています。このうち、氷川女體神社の朱印地は、神社所在地周辺に大きく有するほか、「一宮領」の表記で村内各所に小規模の朱印地が点在している一方（写真⑥）、神明社領は、「神明宮社領」の表記で絵図北側の見沼新田に面した場所にまとまって所在していたことがわかります（写真⑦）。このほか、寺院が正方形、寮が円形の記号で表現されています。



なお、○に漢字またはカタカナで表現された記号は、村内の本百姓の屋敷とその所在地を、各家の屋号の頭文字で示したものです。カタカナ表記の無い○印1軒と、×の記号や墨で表記が塗りつぶされた○印6軒を除いて189軒を数えますが、これは前出の三室村の戸数200戸余りという記述にほぼ一致します。

これとは別に、絵図北西に「名主」の表記が見えます。武笠家は、三室村5組のうち最も西方の山崎組にありました。隣接する「堂」は、現在「白衣観音堂」と呼ばれているもので、「名主抱」と記載されていることから、当時武笠家が所持していたことがわかります（写真⑧）。



次号では、村内の道と字名などを中心に考察し、絵図の性格について考えます。

（学芸員 雨宮 正人）



特別展「江戸時代の三室村をあるく」展示資料（太字は初公開資料）

番号	資料名	年代	寸法(cm)	備考
1	三室村中之絵図	江戸時代後期	64.0×93.0	武笠家文書 市指定文化財 埼玉県立文書館蔵寄託
2	廻状（後欠）	江戸時代後期	16.3×24.5	武笠家文書 市指定文化財 埼玉県立文書館蔵寄託
3	<b>村差出明細帳（三室村松木組）</b>	天保9年(1838)	24.2×17.1	
4	巡見使道筋絵図	天保8年(1837)	27.1×77.8	
5	巡見使道筋絵図	天保8年(1837)	27.2×78.5	
6	三室村山崎組新田畑絵図	天保7年(1836)	27.4×39.4	
7	三室村宿組新田畑絵図	天保7年(1836)	27.8×40.5	
8	上山口新田絵図	天保7年(1836)	32.8×70.4	
9	道祖土村絵図	天保7年(1836)	39.3×27.3	
10	三室村絵図		40.4×83.0	武笠家文書 市指定文化財 埼玉県立文書館蔵寄託
11	三室村絵図	慶應4年(1868)	27.4×39.4	
12	木崎領見沼領南部領村々書上控	安政3年(1856)	25.0×17.3	武笠家文書 市指定文化財 埼玉県立文書館蔵寄託
13	三室村絵図		54.3×77.0	
14	三室村絵図		65.0×92.3	武笠家文書 市指定文化財 埼玉県立文書館蔵寄託
15	三室村松木組新田畑絵図	天保9年(1838)	28.0×40.0	武笠家文書 市指定文化財 埼玉県立文書館蔵寄託
16	三室村芝原組新田畑絵図	天保9年(1838)	28.1×39.8	
17	三室村山崎組新田畑絵図	嘉永2年(1849)	27.4×39.9	
18	三室村新田畑絵図		27.4×39.4	
19	利根川通り絵図		48.7×40.0	武笠家文書 市指定文化財 埼玉県立文書館蔵寄託
20	見沼新田附近絵図（後欠）	天保14年(1843)	53.8×39.2	
21	三室村新田用水絵図	天保9年(1838)	27.5×39.7	
22	中山道浦和宿周辺村略絵図		36.1×50.7	武笠家文書 市指定文化財 埼玉県立文書館蔵寄託
23	諸国道中絵図	弘化5年(1848)	39.1×117.8	さいたま市立博物館蔵
24	算法地方大成	天保8年(1837)	25.2×17.7	さいたま市立博物館蔵

日誌抄

- H27. 6/6(土) 企画展示開始「弥生時代中期のさいたま」7/5まで  
 6/13(土) 親子探鳥会  
 6/18(木) 三室小学校（6年生）地域学習  
 6/19(金) 三室小学校（6年生）地域学習  
 6/23(火) 三室小学校（3年生）地域学習  
 7/1(水)～3(金) 三室中学校職場体験事業  
 7/6(月)～10(金) 館内燻蒸  
 7/18(土)～8/30(日) 夏季企画展「夏休み子ども博物館」  
 7/22(水)～8/5(水) 博物館学芸員実習  
 7/25(土)～8/2(日) 昔のあそび体験  
 7/25(土) 手作りおもちゃ（ぐるぐる人形）づくり  
 7/25(土)～8/30(日) 文化財さがし  
 8/1(土)・2(日) 見沼通船堀のしくみ実験  
 8/22(土) かんたんおもちゃ（缶ぽっくり）づくり  
 見沼通船堀のしくみ実験  
 8/23(日) まが玉づくり  
 10/24(土)～11/29(日) 特別展「江戸時代の三室村をあるく」

さいたま市立浦和博物館報 **あかんさす** No.110  
 編集・発行 さいたま市立浦和博物館  
 〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地  
 TEL・FAX 048-874-3960  
 発行日 平成28年3月3日  
 ホームページ <http://www.city.saitama.jp/004/005/005/004/002/index.html>  
 E-mail [urawa-museum@city.saitama.lg.jp](mailto:urawa-museum@city.saitama.lg.jp)

この館報は2,000部作成し、一部当たりの印刷経費は25円です。

